

34 2012 ロンドンパラリンピックへの道のり ～IBSA ゴールボール世界選手権大会報告～

理療教育・就労支援部 理療教育課 江黒 直樹

<はじめに>

ゴールボール競技は、第2次世界大戦で視覚に傷害を受けた傷痍軍人のリハビリテーション効果を促進するために考案されたプログラムが始まりである。その後1946年オーストリアで競技として紹介され、1976年カナダトロントパラリンピックで公開種目に採用、1978年オーストリアで第1回世界選手権大会が開催、1980年第6回オランダアーヘンパラリンピック大会より公式種目となった。

日本では1982年(昭和57年)に東京都立文京盲学校を会場として競技紹介が行われたが、この時は全国的な普及には至らなかった。1992年(平成4年)財団法人日本身体障害者スポーツ協会(現、日本障害者スポーツ協会)が中心となり、競技規則の翻訳や教室が開催され、1994年(平成6年)5月に日本ゴールボール協会が発足し、普及育成と選手強化、組織体制作りが進んだ結果、国際大会に出場するようになった。2004年アテネパラリンピックでは女子チームが初出場で銅メダルを獲得、2008年北京パラリンピックに連続出場し7位の結果であった。

今回、2012年ロンドンパラリンピックに向けた取組みについて報告する。

<国際視覚障害者スポーツ連盟(以下、IBSA)世界選手権大会報告>

IBSA世界選手権が2010年6月イギリス・シェフィールドにて、参加国男子16チーム、女子12チームで行われた。この大会で3位以内に入ると2012ロンドンパラリンピックの出場権が与えられる。日本は女子チームが出場し、2グループに分かれた予選が行われ、グループ4位で決勝トーナメントに進出した。準々決勝でアメリカに1対3で敗れ、5～8位決定戦に進み1試合目に勝利し、5/6位決定戦でフィンランドと対戦したが、延長戦で決着がつかず、エクストラスロー(1対1によるペナルティー)の結果で敗れ6位となった。

1. 大会を終えてのランキング

1位中国、2位アメリカ、3位スウェーデン、4位カナダ、5位フィンランド、6位日本、7位デンマーク、8位オーストラリア、9位ロシア、10位イスラエル、11位イギリス、12位ギリシャ

2. パラリンピックに向けて選考・強化合宿実施状況

2010年は国際大会として3月アジア選手権大会(世界選手権予選)、6月IBSA世界選手権大会、12月アジアパラリンピックが実施されるので、以下の日程・会場で強化合宿を月に1回実施した。

- ①第1回強化合宿(1/15～1/17)京都ライトハウス
- ②第2回強化合宿(2/19～2/21)岐阜盲学校
- ③第3回強化合宿(4/2～4/4)国リハセンター
- ④第4回強化合宿(4/23～4/25)京都ライトハウス
- ⑤第5回強化合宿(4/30～5/2)国リハセンター
- ⑥第6回強化合宿(6/4～6/6)国リハセンター
- ⑦第7回強化合宿(7/16～7/19)福岡視力障害センター
- ⑧第8回強化合宿(9/3～9/5)福岡視力障害センター
- ⑨第9回強化合宿(10/29～10/31)京都サンアビリティー城陽

3. 国内大会

- ①日本選手権女子一次予選会(8/28～8/29)国リハセンター 女子6チーム出場
- ②日本選手権東日本予選会(9/25～9/26)国リハセンター 男子10チーム出場
- ③日本選手権西日本予選会(10/2～10/3)京都サンアビリティー城陽 男子4チーム出場
- ④日本選手権男女最終予選会(10/23～10/24)福岡スポーツセンター(さんさんプラザ)男子4チーム、女子2チーム出場
- ⑤日本選手権大会(11/20～11/21)京都サンアビリティー城陽

(※出場チーム枠・・・女子は①予選で3チーム、④予選で1チームの女子4チーム出場、男子は②予選で5チーム、③予選で2チーム、④予選で1チームの男子8チーム)

尚、東日本大会及び女子一次予選会には当センターリハビリテーション体育学科の学院生・OB・OG・理療教育課利用者が出場した。また、地方施設では塩原視力障害センター利用者、昨年は福岡視力障害センターや神戸視力障害センターの利用者が出場している。

<まとめ>

ゴールボール競技は、リハビリ的要素から競技スポーツへと発展し、今日選手の育成強化、スタッフやオフィシャルの体制作りが進んだ結果、日本チームは国際大会で好成績が残せるようになった。世界一を決めるパラリンピックに向け、今後も多くの方々の協力と支援をお願いしたい。